# 景観まちづくり地域ディスカッション

【概要】

開催日：①１１月２８日（水）ＰＭ２：１０～４：００
　対象：太田熊谷線沿線にお住まいの皆さん（参加者１５人（市議２、県職員１、市職員１含む））
場　所：くまがや市商工会妻沼支所　２階女性部研修室
内　容：景観に関するミニ宅配講座後、参加者と意見交換を行いました。

【意見交換（●事務局　　○参加者）】

●通り沿いのお宅の中には、現在空き家となっている家が多く、また１０年後はどうなるかわからないとお話いただいたお宅も多くありました。この地域は都市計画法の用途地域では近隣商業地域となっており、建築用途の制限が比較的緩くなっているため、今後更地が増えてきた際に、今の街並にそぐわない建物が次々と建ってしまう心配があります。そうした建物の建築を防ぎ、聖天山の門前町としての町並みを守っていくためには、今の段階から、皆様が共同して、これからこのまちをどうして行きたいか、というものを創っておく必要があります。まずは地域のコミュニティといったところから、これからまちをどうしていくべきか、ということを考えていただければと思います。どうでしょう。ご近所にお年寄りの１人暮らしのお宅がある、最近空き家になってしまったなどといったお話はないですか？

○私の住んでいる地域は、子どもの数が減り続け、お年寄りの割合が増えている。またアパート等も少ないので、新しく越してくる住民もいない。世代交代していかない、ということが現状としての問題としてあるのではないかな、と思っています。

●例えば、地域で子どもを呼び戻そうとかいう意見はでていますか。

○それぞれのお宅の事情もある。地元で仕事がなければ難しいだろうし。お店の売り上げで生活できるという状況なら帰ってくるかもしれないけれど。妻沼聖天山の修復作業が終わり、店の売り上げも好調となることを期待したが、境内には多くの人が来ているけれど、商店街を歩く人は予想と反して、むしろ減ったような印象さえ受けています。

●歴史的な町並みを見直そうという県の景観事業の一環で、平成２３年度から当地域でのまち歩きイベントを行っているが、参加した皆さんから色々なご意見をいただきました。妻沼は川越のような蔵の街のような町並みではなく、庶民の商店街として昔から成り立ってきた地域。まち歩きを行うにあたり、昔と今の町並みの比較や、今でもそうした昔の建物の名残があちらこちらに残っていることなどを話すと、町並みを見ながらとても懐かしがっていた。他の地域ではもうあまり見られないものが、ここにはまだ残っていたということなんです。こうした古い町並みがいま注目されています。古いことが単純にいいとはいわないが、古い建物には地域の生活の記憶が残されているもの。このまま、更地が増え、新しい建物が建ち、町並みが変わっていくことは、聖天様の門前町としてどうなのかな、地元の皆さんは実際にどうお考えになっているのかな、と。今後、このまちをどうしていきたいのか、そうした方向性を示す何かを、皆さんと作っておいたほうがいいのではないかと考えています。

●例えば皆さんがまち歩きのガイドをするとして、太田熊谷線沿いで、どんなものをご案内したらいいと思いますか。

○以前に来訪者から、ここは街並が古いと言われたことがある。この地域は基本的に武家の領地だったというわけでもなく、聖天山の寺社領ではあったが、庶民の町、いわば下町として栄えてきたまちであるから、そのことを基本とすれば、聖天様と合うのかな、と。極端なことをいえば、例えば屋根も瓦ではなく、板葺き屋根にすれば、８００年からの歴史のイメージにマッチするのかな、なんて思いましたけれど。

○かつては熊谷駅から妻沼線が通っていたので、駅舎から聖天山まで歩く参拝者がいたため、人通りができ、当地域の商業も発展した。先日イベントでまち歩きを実施したが、途中に珍しいところや、珍しいお店などがある訳でもないが、そうしたこの地域の昔話などをして、昔を思い出しながら歩いたら、中央公民館から聖天様までの１５分程度、十分に歩けた。歩きやすい町並みだな、と思った。

●人通り、ということに関して、一日どのくらいの人数が妻沼聖天山に訪れているかわかりますか。
○平日と週末等で異なるが、最近は１日平均で５００人程度の観光客が訪れています。１０月後半頃までは７００～８００人位でした。少ない日では３００人位のときもありますが。大型バスで来場する観光客（団体）が増えました。旅行会社のほうでも、色々なツアーを考えてくれているらしいです。先日のツアー客は、お昼を国道１４０号沿いのお店で取ってから来たとお話になっていました。最近は聖天山参拝の後、映画「のぼうの城」に因んで、行田市に向かうというツアーも多いみたいです。
○太田熊谷線における大型バスの交通規制（進入禁止）について、どうにかしてほしいという不満を観光バスの運転手からよく聞きます。
○境内のバス乗り場が満車の際などは、市営観光駐車場の利用を運転手に促しているのだけれど、なかなか理解が得られない。

●他の観光地などをみていると、宣伝力の差が集客力に影響を与えているのかな、と思います。大体の場合、同じ人がまた同じ観光地を訪れるのは、しばらく経ってからのことではないでしょうか。観光でその地を訪れた人にとって、地元の人との触れ合いや口コミはかなり大きな影響を与えるのではないかな、と自分の経験として感じます。これからは地域の見所や魅力を、地元の皆さん自身がどれだけＰＲすることができるか、がリピーターを作るという意味でも重要となるのではないでしょうか。観光客に「また来たいな」と思わせるにも、地元の皆さんが宣伝マンとなり、自ら活きた情報発信を行なっていくなど、地域を盛り上げていくために自ら何らかのアクションを起こしていったほうがよいのではないかな、と他の観光地に訪ねた際などに思いました。

○めぬまには聖天山以外にも色々いいものがある。そうしたものを大きな看板を立ててＰＲしたほうがいいのではないかと思います。例えば日本女医第１号の荻野吟子生誕の地。来年は没後１００年にあたりますし、大々的に形としてＰＲしていくことで、みんながそういう気分になっていくのではないかなと思うんです。

○グライダーの訓練所や、荻野吟子記念館など、順路がわかるような案内看板を出せばいいのではないかと思います。バスで葛和田までくれば、そこから先はわかるよ、といった形にすればいいのでは。
○葛和田の交差点などに設置されている荻野吟子記念館への案内看板は、案内方向や設置されている位置が高すぎるなど、不親切でわかりづらいので、なんとか見直してもらいたい。
●今のお話とはちょっと違う話ですが、看板の設置ということに関連して、例えばまちなか等でたくさん看板がありすぎると、ごちゃごちゃしてしまうこともあると思いますので、全体的なバランスなどについても考えておくことが大切かもしれません。

○他のまちでは、空き家になっている山間地の豪農の旧家屋を利用して都会の人を呼び込み、地域おこしをしている例がある。例えば空き家になったお蕎麦屋さんとか大きな建物の骨組みで使われていた古材を公民館の建築に利用した、という話もある。そうした古民家で使用されていた古材などを行政で手に入れるということはできるのか。
●行政が手に入れるというのは、予算を組んで購入する、とかそういうお話でしょうか？
○例えば、家並や見た目を維持していくのに、更地への新規建築が行われるといったときに、そういうものを揃えていく、とか。これは長期的な展望になってしまう話だけれど。
●町並みを揃えていくひとつの事例として、例えば山形県金山町では、１００年計画で杉のまちにしようと、地域一丸となって１つのまちの方向性に向かって取組が行われています。同じように、めぬまの町並みに関しても、皆さんが勉強を重ねて、こうしていきたい、というものができれば、例えば建築協定や景観協定などといったルールで、地域の町並みを守る仕組みは作れると思います。古民家や空き家については、商工会のほうでも活用について色々と検討されているようで、課題も多いとは思いますが、地域主体でのそうした取組が進んでいけばいいなと思います。

○めぬまの街は暗いということで、以前に地元で街路灯の再整備の話がでたことがあります。反対意見が出て残念ながら取りやめとなりましたが。まず光。アメ横は裸電球でお客さんを集めた、と聞く。各お店も明るい方がいいと思っています。
●ただ、あくまで見た目ということに関してですが、この太田熊谷線は電柱や街路灯、鉄柱が多いという部分もあります。
○整備ができれば、等間隔での設置などを通じてすっきりまとめられたかなと思うのですが。地域での考え方が１つにまとまっていない、ということなんです。

○イベントは集客作業であるが、たとえ大勢の人が集まっても、そのまま帰ってしまうのでは意味がない。来場者が途中商店に立ち寄ってもらうためには、強い魅力をもった商品等が必要であると思う。
●イベントへの出店がきっかけとなって地域に越してこられたという方もいますので、イベント等を通じてもっと広く地域のことを知っていただくということも大切だと思います。
●来場者にイベントを楽しんでもらいながら、地域のことも知ってほしい、ということですよね。
○イベント等の来場者に立ち寄っていただき、またリピーターとして訪れてもらうためには、それぞれのお店が魅力を出せるように自分たちで工夫して頑張らないといけない。

○日本初の重要伝統的建造物群保存地区となった長野県妻籠宿では、基本的なルールとして、家や土地を「売らない･貸さない・壊さない」という取り決めをして、まちの景観を守っている。大体、景観のいいところは、同じように今あるものを「売らない･貸さない・壊さない」というようなことを基本としている。だから、もし行政のほうで、この地区内での景観に関しての建築の基準をつくる、ということであれば、木造で、屋根の形はこれにする、とか。まぁ色々なお店の作り方があると思うのですが。

●全国では、建築協定などを用いて、屋根の色・形・素材についての指定や、フェンスではなく生垣にすること、など色々な取り決めを行っている地域がありますね。

○そういう基準を作って、規制をかけていけばやりやすいだろうと思う。

●そうですね。ただ、そうした基準というものは、行政だけで案を作成するのではなく、地域の皆さん自身が研究して、相談し、納得の上で決めていかないと、自分たちが作った地域のルールとして守っていこうというものにはならない、やはり反対する方が出て、前には進まない、といったことになるのではないでしょうか。

○１人でも反対する方がいれば取りやめとなってしまう。街路灯もそうだったのですが、きれいになると思っていたのですが。

○聖天様が国宝になったことだし、もう一度あげてみれば。

○夜が暗いんですよ。お店も７時半位には大体閉まってしまいますし。

●この意見交換を行う前に、通りの皆さんにアンケートをお願いしました。これからまとめていきますが、その中に「聖天様が国宝になってから売上はどうなりましたか」という項目があります。ここの部分は、今後、他所から新しくお店を出そうと思うかどうか、に関係してくると思って入れました。

○予想というのはわからないもので、来ると思って作ったお店が結局駄目だったりしますよね。

●人の流れによってもずいぶんと変わってしまいますよね。例えば観光駐車場に車をとめて、そこから歩いて聖天山まで行ってください、とお願いしても、結局は近い駐車場にとめるという方が多い。
この間、バスの運転手と話をした時に、観光客の方向けのお土産を買う場所やお食事をする場所などを聞かれ、道の駅をご紹介しましたが、そうしてお話したときに案内できないと、恐らくはそのままお帰りになってしまったと思うのです。

○お食事どころとかもですよね。

○今年の当初は市営観光駐車場から聖天山まで歩いてもらっていたのですが、７０歳位の方だったのですけれども、聖天山に到着した時点で疲労困憊となってしまって、もうこんなところには来ない、と引率の方に怒っているのをみました。往復はとても無理だと思うけれど、体力的に歩ける方は、せめて帰りだけでも観光駐車場まで歩いてもらうようにしていければと考えている。

○バス協会などに相談してみるのもいいのかなと思う。往復の歩きは無理だという方であれば、行きよりも帰りの時のほうが、お参りもすんだ後であるし、観光に来た方も心情的に途中のお店に寄り道をしてくれやすいのではないかと思う。

●めぬまの町なかで皆さんだけがご存知のような、聖天様以外での自慢のようなものがあればお聞きしたいのですが。後学のためにも教えていただければ、と思うのですが。

○弥藤吾の観清寺には、かつて大里を代表するような学校（幡羅高等小学校）があった。井田友平さんなど、ほとんどの方がその学校で勉強された。その大きな記念碑が聖天山の中に立てられている。
○幡羅高等小学校の『家庭心得』も大変立派な理念であり、熊谷市の教育方針にも取り入れられている。
○めぬまの野菜の糖度はかなり高いのだと思うので、それをＰＲしてもいいと思う。試作品を作って、糖度の高さを味わってもらうとか。そうすれば、自慢できるものといった時に、詳しく言えると思う。
○やはり、そうした知識を自分達が知っていないと、外部から来た人たちにお話ができない。
○また、例えば深谷市（旧岡部町）では漬物加工が盛んなので、そちらと連携し、生産・販売はめぬまが担うことで知名度を高めていくというのでもいいのではないか。

○やはりご年配の方が色々なお話をご存知だと思うので、そういった皆さんから知識を教えていただくこと。これがきっとこれからの地域の遺産になると思うんですよね。

○地域のいいところというのは、地元に住んでいる人だと当たり前のこと過ぎてなかなか気づきづらい。自分も若いときに外に出たが、そのときは地元のことを聞かれても関心がなかったものだから、何も知らないし、紹介も出来なかった。一度出て、帰ってきて、改めてどういうまちなのか、とまちに繰り出し、見聞きしたり、訪ねたりし始めた。一回外に出た人や、外の人たちの方が、いいところには気づきやすいのかもしれない。住んでいる人の方がわからないものかもしれない。

○ご年配の方達が色々なことをご存知だと思うので、そうした人たちを囲んでの座談会など、そうしたことがいいのではないかな、と思う。

○最近取り壊された小池染物店が、古くからのお家で、かつて染色をしていた頃には、庭がとても広くて、布がたくさんあって、白い壁の塀がずっと並んでいた大きなお宅だった。お家も昔ながらの造りで、すごかったです。
○天井に格子絵なども施されていて立派なものだった。
○他にもめぬまには昔ながらの大きなお宅がたくさんあったのですけれど。

●色々といいお話が出てきたところなのですが、残念ながらお時間がきてしまいましたので、本日の意見交換はここまでとさせていただきます。たくさんのご意見ありがとうございました。